

わが

将棋駒のふるさとから 3つの日本一への挑戦

はじめに

今から千数百年前、現在は「人間将棋」の会場として知られる「舞鶴山」で念仏を唱えていた高僧行基の下に、天から2人の童子が舞い降りたという伝説が由来となり、周辺一帯を「天童」と呼ぶようになったと伝えられています。

江戸時代には羽州街道の宿場町として栄え、天保2年（1831年）に織田信長の子孫である信美のぶかすが天童に入り天童織田藩となりました。天童と織田藩のかかわりは幕末から明治に至る日本の大変革期まで続きましたが、幕末の家老、吉田大八が「将棋は兵法にも通じるものがあり、武士を貶めるものではない」と、財政難にあえぐ藩士の救済策として将棋駒の内職を奨励したことを始まりとし、天童は日本一の

将棋駒の産地として、その名を全国に知られるところとなりました。

子育て支援日本一への挑戦

天童市は、昭和33年10月に市制を施行し、昭和40年代以降、県内でも有数の人口増加率を維持してきましたが、平成22年国勢調査において、市制施行後、初めて人口が減少に転じました。

定住人口の確保と少子化対策が喫緊きつじんの課題となった中、本市では「子育てするなら天童市」を旗印に、子育て支援日本一を目指してさまざまな施策を実施しています。ソフト面においては、県内のほかの自治体に先駆け、中学3年生までの医療費の完全無料化や第3子以降の保育料などの無料化、認可外保育施設の保育料助成制度などを実施し、多方面から子育て支援施

策を展開しています。ハード面としては、大規模な土地区画整理事業などによる良質な住環境の整備が進行中で、定住人口の確保に向けて、大きな役割を果たすものと考えております。

また、就学以降の子育て支援としては、すべての中学校にエアコンを設置するなど教育環境の向上を図るとともに、市内の全小学校区に設置している放課後児童クラブのうち、児童の生活の場としての環境改善が必要なクラブについて、現在、専用施設としての整備を進めています。

観光・ものづくり 日本一への挑戦

昭和後期から平成にかけて、天童市は将棋駒、いで湯、フルーツの産地として、全国からの大勢の

観光客でにぎわってまいりました。しかし、長引く景気低迷や旅行形態の変化によって、観光客は減少傾向にあります。市では、かつてのにぎわいを取り戻すため、このたび、観光キャッチコピーを「湯のまち天童 あなたの旅に、王手」と刷新し、市民総出でもてなしの機運を醸成するとともに、市の知名度の向上と観光誘客を促進するため、さまざまな媒体を活用して観光情報の発信に取り組んでいます。



満開の桜の下、開催された「人間将棋」

こうした中、本年6月には「山形デステイネーションキャンペーン」が大々的に展開されることとなっておりです。これを機に多くのお客さまから天童市にお出でいただけるよう、本市の魅力をもさらに磨き上げたいと考えています。

また、定住人口確保のために、市内の雇用環境の充実により、勤労近接の快適なまちを形づくる必要があるとの認識に立ち、平成23年には、分譲面積15・8haの新工業団地の整備を完了しました。現在、製造業を中心とした企業誘致を進めています。今後さらに、交通アクセスの優位性を生かし、東北中央自動車道天童インターチェン



モンテディオ山形の選手と小学校児童の交流会

ジ付近に新たな用地を造成し、物流を中心とした業務施設の集積を図っていききたいと考えています。

スポーツ・文化・健康づくり 日本一への挑戦

天童市は、サッカーJ2の「モンテディオ山形」、プロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」2軍、バレーボールVプレミアリーグ女子の「パイオニア・レッドウィングス」といった3つのプロ・実業団チームが本拠地を構えるという恵まれた環境にあり、観戦や応援を通じて「見るスポーツ」が持つ魅力に存分に触れていただけるスポーツタウンです。さらに、これらのチームの地域貢献活動と一体となった少年少女へのスポーツ教室の開催や、地域で自発的に組織された「応援隊」の活動など、市民と行政が力を合わせホームタウンとしての取り組みを総合的に推進しています。

また、さる平成25年11月には、本市が生産量日本一を誇る特産果実の名を冠して、「天童ラ・フランスマラソン大会」を開催しました。遠くは北海道、大阪から、約2000人のランナーの皆さんにエントリーをいただきました。近年、フ

ルーツの女王として定着してきたラ・フランスの天童ブランド化推進との相乗効果を発揮させながら、広く全国に知られる市民マラソンへと成長させたいと考えているところです。

おわりに

私が市長に就任してから5年が経過しました。その間、私はマニフェストに掲げた、「子育て支援日本一」「観光・ものづくり日本一」「スポーツ・文化・健康づくり日本一」

の3つの日本一を目指し、日々努力を重ねてまいりました。これまで子育て支援などではおおむね高い評価をいただいておりますが、市政の幅広い分野にわたっては、市民の皆さんから率直で、時には厳しいご意見を数多くいただいております。私の目指す未来像の実現はまだまだ道半ばと感じています。これから、市民の皆さんの声に真摯に耳を傾け、粉骨砕身、3つの日本一を目指してまいりたいと考えております。

プロフィール

- ◆ 面積 113・01km²
- ◆ 人口 6万2354人
- ◆ 世帯数 2万566世帯

〔将来都市像〕笑顔にぎわいしあわせ実感 健康都市

〔まちの特徴〕山形県のほぼ中央に位置し、東南に秀峰蔵王の山並み、西には霊峰月山を望む緑豊かなまち



天童市長
山本信治



〔特産品〕将棋駒、サクランボ、ラ・フランス、地酒、乾麺

〔観光〕天童温泉、舞鶴山、若松寺、山寺（立石寺）、将棋資料館、出羽桜美術館、広重美術館、西沼田遺跡公園

〔イベント〕天童桜まつり「人間将棋」、天童ラ・フランスマラソン大会、おくのほそ道 天童紅花まつり、天童市将棋フェスティバル、天童冬の陣「平成鍋合戦」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

住みよさ日本一を目指して

**川魚料理の伝統が根付くまち
「なまずの里吉川」**

吉川市は、埼玉県の南東部に位置し、ほぼ平坦な地形です。東は江戸川を挟み千葉県野田市と流山市に、西は中川を挟んで越谷市・草加市、南は三郷市、そして北は松伏町と、それぞれ境を接しています。昭和30年に旧吉川町・旭村・三輪野江村が合併して新吉川町となり、その後、昭和48年の国鉄(現JR)武蔵野線の開通と吉川団地の建設を経て平成3年には人口5万人を超えました。そして平成8年4月に市制を施行し、「吉川市」が新たにスタートしました。

また本市では、中川、江戸川という2つの川に挟まれた地形を生かした文化がはぐくまれ、川魚料理という食文化が根付きました。

江戸時代初期には、河岸付近に川魚料理を提供する料亭が軒を連ね、物産とともに集まった人々の舌を楽しませ、特に川魚料理は「吉川に来て、なまず、うなぎ食わずなかれ」といわれるほどの名声があり、歴史上の著名人なども食しているといわれています。

吉川市の魅力

本市の魅力は一言でいえば、住環境の良さです。首都圏20km圏、1時間以内で都心への通勤通学ができるため、ベッドタウン化が進んでいます。その一方、1970年代に約8割あった市街化調整区域は、現在でも7割強を占めています。そのため吉川市は、住む人にとって自然豊かな「ほっ」とする場所であり、心安らぐ場所になっています。今後、も開発の予定をしておりますが、

住環境を大事にして、水と緑はきちんと残していきたいと思っております。そこで現在進行中の第5次

吉川市総合振興計画では、市の魅力を生かしながら、すべての市民の暮らしが快適になり、活力あふれるまちが実現される姿として「人とまちが輝く快適都市よしかわ」を将来都市像としています。そして本計画に基づく前期基本計画では、「災害から市民の生命と財産を守る」「子育てしやすいまちをつくる」「まちの住みよさと魅力を高める」以上3点について、重点的に推進するものとして、取り組んでいます。

災害から市民の生命と

財産を守る

―義務教育施設耐震化工事 と新庁舎建設―

市内小中学校の校舎の耐震補強



吉川駅南口ロータリーに設置された「金色のなまずモニュメント」

工事につきましては、東日本大震災発生前に完了しており、体育館につきましても、残すところあと2校となり、間もなく終了予定です。そして東日本大震災発生時の教訓を踏まえ、老朽化が著しい現在の市庁舎では防災拠点としての機能を果たすことが困難なため、震災後直ちに新庁舎の建設事業に着手しております。建設にあたりましては、平成8年度に購入した新庁舎用地に現庁舎や分散してい

る機能を集約し、防災拠点としての機能が果たせるものとして、平成28年度の竣工を目指し、スピード感をもって取り組んでいます。

子育てしやすいまちをつくる —待機児童ゼロの実現と 小学校の新設開校—

子育て支援では、子ども医療費の中学生までの通院・入院の無料化はもとより、市内医療機関と連携して病児病後児保育室を開設するなど、積極的に取り組んでいます。そして平成24年4月には、民間事業者と連携し、新たな保育所を開設した結果、待機児童ゼロ（国の基準）を実現しています。また保育所利用者の利便性の向上を図るため、駅前拠点保育所と市内各保育所をバスでつなぐ送迎保育も開始しており、子育て世代の皆さま



市内に多く残る田園風景

方から好評を得ております。

そして子育て世代の新たな人口流入を見込み、平成25年4月には、市内8番目となる吉川市立美南小学校を新設開校しております。この小学校内には、公民館や子育て支援センター、学童保育室、高齢者ふれあい広場を集約して、世代間の交流・ふれあいの場を設けています。ここでは、自治会活動や地域のイベントを通じて、新しい住民の方から昔から住んでいる方まで、お互いに溶け込み、交流しておられます。

まちの住みよさと 魅力を高める

—新駅開業と新たな 区画整理事業の推進—

市内を通るJR武蔵野線は、東京メタグループと呼ばれる東京圏の環状路線群の1つです。このJR

武蔵野線の新駅「吉川美南駅」が、市内2番目の駅として、平成24年に開業しました。新駅開業に伴い市では、新

駅自由通路に人間国宝の室瀬和美氏の作品、そして駅周辺には著名な彫刻家の方々のモニュメントを配置して、市民に親しまれるウォーキングロードを整備し、芸術文化のまちづくりをコンセプトとして、まちづくりを進めています。そして新駅周辺で未整備（農地）地域（約60ha）につきましても、区画整理による新たなまちづくりに着手し、平成26年度内の都市計

プロフィール

- ◆ 面積 31・62km²
- ◆ 人口 6万8482人
- ◆ 世帯数 2万6566世帯

〔将来都市像〕人とまちが輝く快適都市
市よしかわ

〔まちの特徴〕中川・江戸川という2つの川に挟まれ田園風景を残しながら、首都圏20km圏内という立地条件を生かし、人口増加が続くまち。進行中の土地区画整理地内への新たな人口定着も見込まれる



吉川市長
戸張胤茂



〔特産品〕川魚料理（なます）、花しょうぶ、吉川ネギ、なます御前
〔観光〕金色のなますモニュメント、さくら通り、中井沼公園
〔イベント〕吉川八坂祭り、吉川なますの里マラソン、吉川マルシェ、吉川市民まつり

画決定を目指して、事業を推進しています。

住みよき日本一を目指して

「住みよき日本一」は、私のまちづくりのスローガンとして掲げているものです。私は、本市で育った子どもたち、そしてその子たちが「住み続けたい」と思える「人とまちが輝く快適都市よしかわ」を目指してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

自然と笑顔があふれる 誇れるまち

はじめに

昭和33年3月31日に御所町・葛村・葛上村・大正村の4カ村が合併し、御所市が発足しました。

「古事記」や「日本書紀」には、現在の御所市を本拠地とした大和朝廷の時代の豪族葛城氏・巨勢氏に関する記述が多く見られ、現在においても一級史跡・古墳や社寺が多く残されています。時代を下っては桑山氏の城下町であったことから、物資の集散地として、また寺内町として発達し、江戸時代の御所町は商都として栄えました。産業では古くから役行者えんのやくづね(役小角)ゆかりの製菓が盛んであり、近年ではサンダル製造を中心としたゴム製品や繊維製品の地場産業も発達し、現在では履物産業や製菓業、配置業、地酒の製造業などが盛んです。

さまざまな観光資源

本市は、金剛山・葛城山などの良好な自然資源、豪族であった葛城氏・巨勢氏にまつわる遺跡、御所まちの背割り下水や近世の町並みなど多くの歴史・文化資源に恵まれています。

中でも葛城山では「ひと目百万本」といわれる見事なツツジの群生を觀賞することができ、シーズンを迎えますと多くの登山者でにぎわいを見せます。最近では山頂において恋人たちの聖地として「天空のベル」と名付けられたモニュメントが完成し、恋人たちが可愛いハート型の南京錠を掛け、ベルを鳴らし、2人の愛が成就するようにと祈願のできるスポットが誕生しました。

今からおよそ1300年前には伝説的なスーパースター、役小角えんのやくづね



マスコットキャラクター「ゴセンちゃん」

が本市吉祥草寺に生まれ、葛城山を山中修行の場として駆け巡り、不思議な術を身に付けました。また、日本神話のふるさとといわれており、神々が住まわれていたとされる名所・旧跡があり、ハイキングが楽しめる葛城の道など多くの観光名所があります。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」。日本で最初の原点となる解放運動。水平社発祥の地も本市であり、今でもその先人の精神を受け継ぎ、あらゆる人権問題に関するさまざまな取り組みを行っています。今後「人権のふるさと」として歴史の継承、人権文化の発展を目指していきたいと思えます。

財政健全化へのあゆみ

私が市長に就任して2期目で、5年と8カ月が過ぎました。就任

当時の本市の財政事情は、財政破綻はたんの一手手前の危機的な状況であり、「財政非常事態宣言」を内外に発しました。平成20年度決算において、「実質赤字比率」および「実質公債比率」の2指標が「早期健全化基準」を上回り、財政健全化団体に陥りました。そこで財政健全化計画を平成21年度より策定し、健全化に向けた取り組みを開始、累積赤字の解消と財政構造の改善を図るため、市税の徴収強化(差し押さえ)、市有財産の売却による歳入の確保、公営住宅使用料の徴収強化、総人件費の抑制(特別職報酬カット、職員給与カット、職員数の削減など)、施設の統廃合、さらには各種団体への補助金削減などにより行政のスリム化を行いました。中でも各種団体の補助金削減には、多くの市民の方々からお叱りの声もありましたが、タウンミーティングなどで財政運営に対するご理解をいただき、今まで行政が計画していた市民体育祭や敬老祭などさ



鴨都波神社に奉納する十張の提灯を三段に組み上げた「ススキ提灯」

さまざまなイベントを、財政が苦しいならばと逆に市民の方々が率先して引き受けてくださり、実行委員会形式でほとんどがボランティアでの実施となりました。各々のイベントは発案の緻密さや運営費の抑制を考えた市民参加型が多く見られ、大盛況に終了することができました。実行委員の皆さまには深く感謝しています。このように、財政のピンチを「市民力」で乗り越えたことで、市民と行政が協働して新たな御所市をつくり上げていく基盤ができたと考えています。

おかげをもちまして、平成23年度一般会計決算では、41年ぶりの黒字化を達成することができました。計画は平成21年度から平成25年度までの5年間で、

「早期健全化基準」を1年前倒しでクリアできたことは、国や県の支援、何よりも市民の皆さまのご理解・ご協力のたまものであると深く感謝しているところです。しかし、決して余断を許さない状況は

続いており、強固な財政基盤の構築を模索しながら決して後退することのないよう行政運営をしてまいりたいと思います。

人口減少と少子高齢化といった問題も急速に進み、その対策も重要な課題です。人口が約2万8600人。高齢化率も30%を超えました。何とかこの問題に対処するため、雇用の確保と人口の定住化を目指し、京奈和自動車道を中心とした企業誘致や、新婚家賃補助事業を実施中です。若年層の人口維持・増加や少子化を少しでも食い止めるため、一世代でも多くの方々はこの事業を活用していただき、御所に定住し、子育てをしていただきたいと思います。

市制施行55周年 「頂点のまちを目指す」

先にも述べましたが、本市は昭和33年に誕生し、平成25年3月31日で55周年を迎え、市制施行55周年記念事業を開催しました。この事業も、行政主体ではなく市民の皆さまの主導で、実行委員会形式で行われ、本市が未来に向かってさまざまなアクションを起こし、発展するようにと、「目指せ！頂点のまち」をスローガンに、1年間、四季

ごとに記念イベントを開催いたしました。春は、市の花であるツツジの植樹とウォーキング。夏は祭りをテーマに市内全域で古くから伝承される、高さ5mの「ススキ提灯」86本が一堂に会する献灯行事。秋は、金剛・葛城連山の縦断トレッキング（台風接近により中止）。冬は、市内の特産物にこだわるG級（ごせ）グルメコンテスト。それぞれ多くの

市民の方にご参加いただきました。また55周年を機に本市のマスコミトキヤクターゴセンちゃんが3月31日に誕生しました。

わがまちは、この市制55周年を契機として、さらに市民と行政が一体となり、オール御所市で御所市らしく、「自然と笑顔があふれる誇れるまち」づくりを進めていきたいと思っています。

プロフィール

- ◆ 面積 60・58 km²
- ◆ 人口 2万8699人
- ◆ 世帯数 1万2300世帯

〔将来都市像〕「住み続けたいまちづくり」「生き生きと健やかに暮らせるまちづくり」「学びあひ歴史文化にふれあえるまちづくり」「活力とにぎわいのまちづくり」「市民参加のまちづくり」

〔まちの特徴〕奈良県の大和平野の西部に位置し、西部には金剛山・葛城山が峰を連ね、東南部の丘陵地から平地の広がる緑豊かな自然に囲まれた田園都市



御所市長
東川 裕



〔特産品〕御所柿、製菓、ハップサンダル、マーケティングペン、メリヤス靴下、家庭配置薬、桐材、吉野葛、柿の葉寿司、山の芋、鴨肉、地酒、醤油

〔観光〕「葛城の道」「巨勢の道」「秋津洲の道」「御所まち」、葛城山ツツジの群生、九品寺、一言主神社、高天彦神社、鴨都波神社、吉祥草寺、船宿寺、巨勢山古墳群、宮山古墳、條ウル神古墳

〔イベント〕吉祥草寺左義長（大トンド）、日本サクラ草祭、花祭り、汁かけ祭、鴨都波神社夏祭り・秋祭り、金剛葛城山下一周駅伝大会、計算力・思考力大会算学修行えんのおづぬ（役小角）杯

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

地域の特色を生かし、ひとが輝く 創造力豊かな安来を目指して

安来節とハガネのまち

「安来節発祥の地」として知られる安来市は、鳥取県との県境に位置し、島根県の東の玄関口として山陰地方の経済・人口が集積する中海圏域の一角を占めるまちです。古来より「たたら製鉄」によって産出された鉄の集散地として栄えた歴史があり、物流の拠点であった安来港周辺には、「たたら」の流



どじょうすくい知られる民謡「安来節」

れをくむ鉄鋼関連企業が集積し、本市の基幹産業を形成しています。中でも、高品質の高級特殊鋼を産出していることから「ハガネのまち」とも呼ばれています。どじょうすくい知られる「安来節」は当地で生まれた民謡であり、創立103年目となる安来節保存会（全国65支部、会員約3700人）を中心に普及活動を展開しています。平成18年にオープンした安来節演芸館では、棧敷席をイメージしたホールで本場の安来節を堪能できるほか、地元産のどじょう料理が人気です。また、横山大観など近代日本画の秀作を所蔵する「足立美術館」の日本庭園は、米国の日本庭園専門誌が実施するランキンゲ調査で、10年連続日本一の快挙を達成しています。

躍進する基幹産業

「ヤスキハガネ」のブランドで世界的に高い評価を得る高級特殊鋼を主力製品とする日立金属（株）安来工場をはじめ、複数の企業が航空機産業への進出を目指して奮闘しています。この分野は、世界的に着実な市場成長が見込まれ中小企業への波及効果も期待できることから、市としても全面的な協力・支援を図る考えです。

一方、もう一つの基幹産業に位置付けている農業の生産性向上を目指す施策として大区画圃場整備ほじょう事業を進めており、平成28年度には西日本有数の大区画圃場約600haが完成します。併せて営農法人化も進んでおり、優良な生産体制と企業的な経営による食料生産拠点として、安定した農業運

営に大きく貢献するものと期待しています。

月山富田城を ランドマークに

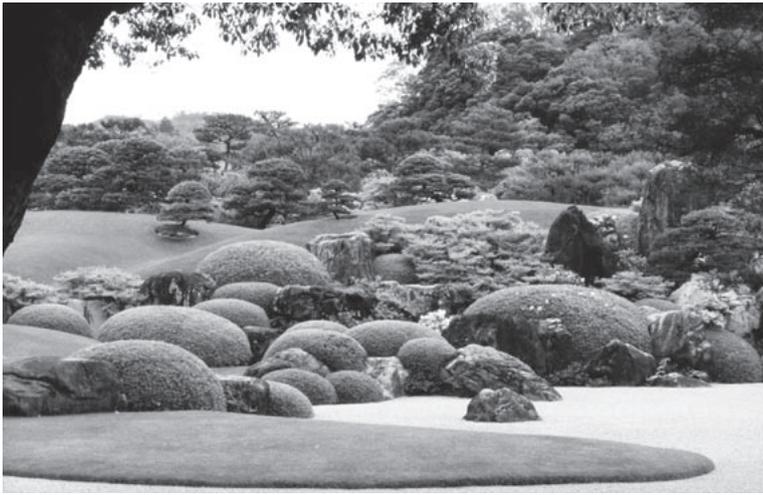
市内には、大型古墳群をはじめ奈良時代に編纂へんさんされた「古事記」や「出雲国風土記」ゆかりの場所や神社などが多く、いにしへの香りが色濃く残っています。中でも、山陰・山陽11国に覇を唱えた戦国大名尼子氏の居城であった月山富田城跡は国の史跡にも指定され、日本100名城や日本五大山城に選ばれたことで、訪れるファンが増えています。

しかし、太鼓壇や山中御殿をはじめ本丸へ続く山道や戦闘に備えた遺構など、中世の山城がそのままの姿で現存する、文化的に価値の高い城跡であることは意外に知られていません。今後は誘導サインなどの整備を進め、観光資源としての付加価値を高めることで、この貴重な史跡の魅力を広く

発信することとしています。

次代につなぐ基盤固め

各地域の特色を生かした総合的な発展が、市の一体感を醸成するためには欠かせない要素の一つであることを念頭に置き、活気あるまちづくりを実践しています。とりわけ、活動の拠点となる公共施設の充実は今後の市政の礎となるものであり、老朽が著しい市庁舎、消防庁舎、市民会館の建て替えと、給食センターの新設を重点事業に



米国専門誌の日本庭園ランキングで10年連続日本一に輝いた「足立美術館」

位置付け、段階的に進めている最中です。また、公立保育所・幼稚園・小中学校の耐震対策を既に終えて耐震化率100%を達成しており、未来を担う子どもたちの安全に配慮しています。

少子化対策の一環として、子育て支援を主要施策の一つに挙げ、安心して子どもを産み育てることができる社会の形成を目指しています。中でも、医療費無料化については現在小学3年生までとしており、随時拡充していく考えです。また、妊娠を希望する夫婦などを対象にした風しん等予防接種費用の助成事業や、第3子以降の児童に対する保育料無料化など、子育て世代への経済的支援策を講じています。

子育てをサポートする環境面として、全国的な課題である保育所待機児童はゼロ体制を維持しています。また、幼稚園と保育所を一体化した幼保連携型施設「認定こども園」を公立では県内でいち早く開設し、きめ細かな就学前教育を実現するとともに異年齢交流による情操教育の成果も挙げています。さらに、子育て支援センターを設置し、妊娠中から幼児期まで

一貫した子育て支援・母子保健業務を一体的に行い、児童相談所や学校関係機関とも連携を取りながら多面的な支援を行っています。そのほか先進的な取り組みとして、中海・宍道湖・大山圏域を構成する安来・松江・出雲・米子・境港の5市が、鳥取県西部町村会(7町村)をオプザバーに設立した市長会では、連携して圏域の持

つ強みを発揮することで、単独では困難な施策を実現させる新たな行政スタイルを構築し、一体的な発展を目指しています。出雲大社をはじめ多くの観光資源に恵まれるこの圏域には、高速道路と国際拠点港、2つの空港など、陸・海・空の交通インフラが整っており、観光招致や企業誘致などに新たな可能性を確信しています。

プロフィール

- ◆ 面積 420・97km²
- ◆ 人口 4万1311人
- ◆ 世帯数 1万4118世帯

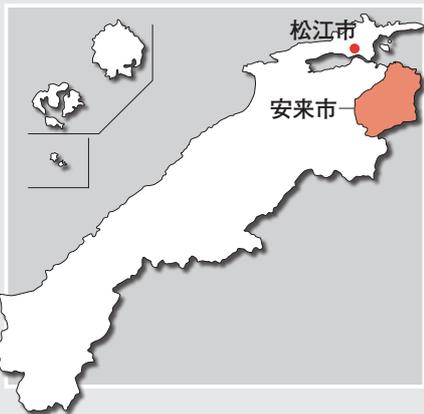
〔将来都市像〕 目指そう! 「元氣・いきいき・快適都市」へ自活と共助のまち・やすぎ

〔まちの特徴〕 民謡安来節とハガネのまち。尼子氏ゆかりの戦国口マン探訪が旬なおすすめ

〔市町村合併〕 平成16年10月1日に旧安来市・旧広瀬町・旧伯太町が合併
〔特産品〕 高級特殊鋼、広瀬餅、陶器



安来市長
近藤宏樹



ドジョウウ、イチゴ、ナシ、花卉、清水羊羹

〔観光〕 足立美術館、安来節演芸館、清水寺、月山富田城跡、比婆山、和鋼博物館、加納美術館

〔イベント〕 やすぎ刃物まつり、なかうみマラソン全国大会、安来節全国優勝大会、やすぎ月の輪まつり、はくたチューリップ祭、ひろせ祇園祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。